

令和6年度「第7回全国安全指導員連絡会」報告書

令和6年12月1日（日）13：00～15：30

令和6年度「第7回全国安全指導員連絡会」は、WEB（ZOOM）によるビデオ会議形式で開催された。今年度もより多くの指導者に参加していただくよう各都道府県に最大5名まで参加可能な旨を案内して、全国安全指導員連絡会を開催した。

（司会 小宮委員）

○開催挨拶（全日本柔道連盟 副会長兼専務理事 中里 壮也）

中里副会長兼専務理事より開催の挨拶があった。

2015年に入所して約1カ月で福岡県にて死亡事故が起きました。中学生1年生の女子生徒が急性硬膜下血腫で亡くなりました。お通夜に参列し、その時に見た光景を原点として重大事故を無くさなくてはいけない、むしろ安全のために柔道を学ぶというふうに言われるまでやり続けたいと思っています。どうか皆様もこういう考えを共有していただければありがたいと思います。

○会長挨拶（全日本柔道連盟 会長 中村 真一）

中村会長より挨拶があった。

これまで本連盟では重大事故の根絶、安全指導の徹底を推進して参りました。この連絡会もその取組のひとつとして毎年定例開催され、今回で7回目を迎え、重大事故の根絶に向けてさらに内容の充実を図りたいと考えています。

コロナ禍以降の柔道事故の傾向として、頭部、頸部を中心とした重大事故の報告が増加していることに連盟としても危機感を強めています。

今年度は、頭部打撲により死亡に至る重大事故が1件発生しており、脳しんとう等の頭部事故も多数報告されています。近年は成人の重大事故も増加傾向にあります。各都道府県の連盟、競技団体におかれましては、こうした現状に鑑み、一層の事故防止及び安全指導の徹底をよろしく願います。

むすびに、重大事故の根絶に向けて、本連盟ではスポーツ団体ガバナンスコードの改訂に伴い、「柔道事故防止に向けた安全管理規程」を制定しました。本規程に基づき、これまでに作成、改訂された「柔道の安全指導」第6版及び「危険な場面映像資料」等の資料を効果的に活用することにより事故防止、安全指導を徹底していきたいと考えています。

本日の連絡会が充実した有意義な機会となることを期待しています。

○開催趣旨（全日本柔道連盟 重大事故総合対策委員会 委員長 磯村 元信）
「第 7 回全国安全指導員連絡会」を今年度も多くの指導者に参加していただけるよう WEB 会議で開催することとなりました。今年度も 100 名近くの参加者で開催されています。

本年の趣旨は、全国都道府県の柔道連盟・協会の事故防止の取り組みの地域格差をなくし、効果的な安全指導を普及することで重大事故ゼロを目指すことです。皆様のご協力・ご尽力により、近年、重大事故は減少傾向にありますが、コロナ禍以降、頭部・頸部の重大事故が増加傾向にあり、今年度は乱取り中の頭部打撲による急性硬膜下血腫によって 1 名が死亡に至っています。その他にも、脳震盪等の頭部の事故などが多数報告されています。近年、成人の重大事故も増加傾向にあります。子どもの重大事故撲滅と同様に、成人や高齢者の事故防止も今後の大きな課題となっています。スポーツ団体ガバナンスコードにスポーツ事故にむけた安全管理が追記されたことに伴い、全日本柔道連盟では「柔道事故防止に向けた安全管理規程」を制定しました。本日の連絡会が充実した会議になることを願っています。

1. 事故につながる危険な場面（重大事故総合対策委員会 委員 松永 大吾）

重大事故総合対策委員会、医科学委員会兼任の松永委員による「柔道重大事故 最近の動向」を下記の内容でスライド解説を行った。

- ・重大事故総合対策委員会の沿革
- ・2015-2024 年のおもな重大事故 1~4
- ・ほとんどが典型的な柔道事故
- ・近年問題視されている事故要因
- ・絞め落ちの見逃し（深落ち）対策
- ・重大事故ゼロを目指して
- ・コロナでさらに加速した子どもの深刻な変化
- ・長引くコロナ自粛の心理的影響
- ・コロナ時代の小中高生の心（文科省調査）
- ・状況はコロナ後も歯止めがかからず
- ・発達障碍の生徒も増加傾向
- ・コロナで加速した体力低下と格差拡大
- ・コロナの陰で静かに進んだ部活動の地域移行
- ・とにかく事故を起こさない！なおかつ最悪の事態に備える！
- ・「危険な場面映像資料」（本年は少年規程編が完成）の案内

2. 全国柔道事故被害者の会 講演（倉田 久子 様）

全国柔道事故被害者の会・代表の倉田久子様が「『柔道は安全』と言われるために」を題材に講演されました。

・柔道事故と人口減少

2012年以降、深刻な柔道事故が多発し、その背景が変化している。

柔道人口の減少傾向が事故発生と関連している可能性を示唆するデータが存在する。

減少する柔道人口は、将来、柔道の衰退につながる懸念事項である。

・柔道のすばらしさ

中学校柔道部における安全指導と生徒たちの柔道への情熱が紹介された。

生徒たちは柔道の技術向上や体力向上、仲間との絆、礼儀作法の習得など、多くの喜びや成長を実感している。

生徒たちの積極的な姿勢と先生方の指導の成果によって、柔道の意義と価値が再認識されている。

・柔道界における事故問題の現状と課題

報道される柔道事故は、トップ選手の活躍以外では青少年に関するものが多く、問題の根深さが示唆される。

事故原因は指導者の質、関係者間の情報共有不足、医学的知識不足など多岐にわたり、柔道界全体の課題となっている。

事故の再発防止には、指導者教育の徹底、関係機関の情報共有促進、医学的知識の普及などが不可欠である。

・学校と道場の事故多発と事故対応の重要性

学校や道場における事故が頻発しており、2012年以降も同様の事故が継続している。

事故の原因究明、被害者への説明、再発防止策といった事故対応が不十分であることが問題点として挙げられた。

・小児頭部外傷と教育現場の対応

全国の教育委員会への訪問で、小児の頭部外傷への対応の進歩が確認された。しかし、CTやMRI検査で異常がないにも関わらず、症状を呈するケースがあり、教育関係者を悩ませている。早期の脳神経外科医への相談やセカンドオピニオンの活用、関係者間の連携による丁寧な説明が必要である。

・事故と安全対策

症状の改善と安心感を与えることの重要性、医師の指示の欠如による悲劇的な事例の紹介がされた。

子どもの才能を伸ばし、自己肯定感を育む親の願いと、スポーツ活動における安全対策の必要性が強調された。

事故発生時の対応と再発防止に向けた取り組み、正しい診断と適切な対応が必要である。

- ・柔道の安全と指導における課題
親の思いの強さと、子どもたちの将来を見据えて指導の重要性、柔道の安全性を確保するための取り組みと、子どもたちの自己申告を促す練習環境の必要性を述べられた。
- ・スポーツ安全対策の現状と課題
子どもの安全確保の重要性と、指導者育成における国家資格取得の必要性、安全対策の強化と、他競技との情報共有による安全性の向上を目指すべきである。
- ・日本の柔道とフランス柔道の比較
フランスの柔道では精神性を重視し、子どもの安全を最優先する独自の指導法が確立されているが、日本の柔道では事故発生の背景に指導者の問題点が指摘されている。日本の柔道における事故の多発は、指導者の資質不足や指導法の見直し不足に起因する。
- ・柔道の安全と指導者育成
親が指導者を選ぶ際に安全性を重視することで、質の高い指導現場が増える可能性がある。柔道の安全性を高めるには、個々の道場だけでなく、社会全体での取り組みが必要である。
- ・指導者への敬意と子どもたちの育成
指導者や教育場への信頼と敬意は、過去の功績ではなく、現在導いてくれる存在への敬意である。子どもたちの事故防止と育成に役立つ内容の共有と、今後の発展に期待する。

3. 日本ラグビー協会における安全への取り組み 講演（田村 謙太郎 様（信州大学嘱託講師））

日本ラグビー協会における安全への取り組みとして、信州大学嘱託講師の田村謙太郎先生にスライドと動画により紹介していただきました。

- ・日本スポーツ安全環境整備への取り組み
- ・緊急時対応計画とラグビーE ラーニング
- ・安全対策とスポーツマンシップ向上のための講習会
- ・ラグビー安全対策の進化
- ・柔道における搬送と安全確保
- ・ラグビー脳震盪管理ツールと学習資料
- ・ステップツール分析と症状の明確化
- ・意識状態と外傷の関連性
- ・意識障害の疑いに関する分析
- ・競技中の選手の状態把握と対応
- ・動画の解説と重要ポイント
- ・ラグビー情報ウェブサイトの活用法
- ・自動翻訳機と搬送補助員
- ・ラグビーとゴリラからの学び

4. 柔道事故防止のための安全管理規程について（重大事故総合対策委員会 委員長 磯村元信）

重大事故総合対策委員会・磯村委員長から「柔道事故防止のための安全管理規程」についての説明がなされた。

全国の安全指導の実施状況報告を継続して依頼しているが、数年にわたって報告のない県がある。全国の安全指導講習会の実施状況把握をすることで、地域間の格差をなくし、講習会の質の向上を目指している。引き続き実施報告書の提出をお願いしたい。

5. 審判委員会の活動（審判委員会 委員長 大迫 明伸）

審判委員会・大迫委員長より委員長7年間の活動報告として、少年大会における子どもの安全確保のためのルール改定についての説明がなされた。

全国での運用にばらつきがあったルールを映像資料を用いて明確にし、危険な状況の対応を徹底した。

6. 質疑応答

- ・コロナ禍以降、脳震盪が増加しているという説明があったが、なぜ増加しているのか（重大事故総合対策委員会 松永委員が回答）
- ・初心者に対するヘッドギアの装着は推奨されているのか（重大事故総合対策委員会 松永委員が回答）
- ・本日の講義の資料をいただけないか（重大事故総合対策委員会 磯村委員長が回答）
- ・少年規程として「指導」とされている両膝つきの背負投ですが、片膝つきの背負投もしてはいけないということにはできないか（審判委員会 大迫委員長が回答）
- ・大外刈と同様に膝をつかないでできるようになる背負投の練習方法等を発信していただけないか（重大事故総合対策委員会 磯村委員長が回答）
- ・ヘッドディフェンスと低い背負投でやむをえず頭から着地してしまった場合の見極めはどうしたらいいか（審判委員会 大迫委員長が回答）
- ・体力の低い子どもが果たして今のルールに適合するか、指導方法を検討すべきではないか（審判委員会 大迫委員長が回答）
- ・絞め落ちの対応についての統一見解はでたのか（審判委員会 大迫委員長が回答）
- ・スマートマウスガードの着用は、柔道競技でも可能か（審判委員会 大迫委員長が回答）

7. 閉会挨拶（重大事故総合対策委員会 委員長 磯村 元信）

最後に、重大事故総合対策委員会・磯村委員長より、閉会の挨拶があった。

本日の講師に対して謝辞。

○「第7回全国安全指導者連絡会」アンケート

連絡会后、各都道府県へ「第7回全国安全指導者連絡会」のアンケート調査を実施。

37 都道府県より回答があった。

- ・例年通り WEB だけでなくごく少数ではあるが対面希望（又は対面を検討してほしい）
 - ・今回は日曜日開催であったが、土曜日の午後が良いという意見があった
 - ・ラグビー協会の取り組みが参考になった
 - ・大迫審判委員長に質問ができてよかった、今後も審判委員会の方をお願いしたい
 - ・被害者の会の倉田さんの講演が素晴らしかった
 - ・松永先生の事故映像も含め、都道府県連盟でも映像を使いたい
- * 圧倒的に肯定的な意見が多かった

以 上